

子ども虐待防止のシンボル

オレンジリボン



オレンジリボン運動は、平成16年9月、栃木県小山市で幼い兄弟が虐待の末亡くなったという事件を契機に、小山市の市民団体が子どもへの虐待防止を目指して始めたものです。このリボンには、「子どもたちを虐待しないで」というメッセージが込められています。

ためらわずに相談を！

子ども虐待に関する連絡先

虐待と思われる事実を知った方、虐待に限らず家庭や育児で悩んでいる方は、ぜひご相談ください。匿名でも構いません。個人情報などの秘密は厳守いたしますので、ご安心ください。

《相談・通告》

- ▶ 子育て支援課 ☎ 23局 3513
- ▶ 休日・夜間 ☎ 22局 1111 (市役所代表)

《相談・通告》

- ▶ 東三河児童・障害者相談センター
(児童相談所)
☎ (0532)54局6465

《緊急通報》

- ▶ 田原警察署 (生活安全課)
☎ 23局 0110 (代表)

児童虐待の相談(通告)は 保護者を救うことにも

児童虐待にはさまざまな背景があります。子育ては楽しいことばかりではなく、思うようにはいかないものです。身近に子育てについて相談できる人がいないなど、孤独な環境で悩みを抱える保護者も少なくありません。そんな中、子どもが泣きやまないなどといったきつかけで、心の余裕を失い、虐待に至る可能性があります。虐待は、保護者を責めても解決にはなりません。多くの場合は、自身が後悔し、やめなければと思っています。専門機関への相談(通告)は、悩み、

苦しんでいる保護者が援助を受ける きつかけにもなります。

「助けてー!」のサイン
気づいてー!
子どもからの「助けてー!」のサインや保護者の様子から、周囲が虐待に気付くこともあります。
児童虐待は、あなたの身近なごく普通の家庭でも起きているかもしれません。子どもを虐待から守るには、地域の皆さんの協力が必要です。気になることがあったら、迷わず左記「子ども虐待に関する連絡先」にお電話ください。

「助けてー!」のサイン

【子ども】

- おびえた泣き方をする
- 頻繁にけがや火傷をしている
- いつも服が汚れている、季節に合わない服を着ている

【保護者】

- 常にお腹をすかせている
- 家に帰りがたがらない など
- 子どものことについていつもイライラしている
- 子どもを家や車の中に放置する
- 罵声や暴力行為がある
- 地域との付き合いを避けている
- いつも疲れた様子で笑顔がないなど

